

3.3.16 新世代モバイル研究開発プロジェクト推進室

中期計画期間全体

目 標

新世代モバイル研究開発プロジェクトの研究計画の全体設計、具体化作業の企画・立案、プロジェクトの管理・運営、内外機関との調整・連携促進、研究成果の取りまとめ及び成果発表の促進等に至る一連の作業を行うことで「新世代モバイル研究開発プロジェクト」が効率よく実施でき、標準化・ビジネス化を含めて、多くの研究成果が得られることを目標とする。

目標を達成するための内容と方法

(1) プロジェクトの推進：グループリーダー会議及び全体会議を定期的に開催し、各グループの進捗状況の確認、統括リーダーへの情報提供及び指示事項の具体化等を通して、プロジェクトの効率的な推進を図る。(2) 共同研究、研究委託、ジョイントワークショップ開催等の外部機関との連携促進、(3) サポートメンバー会議、コンソーシアム会議、研究成果報告会等の開催、(4) 標準化活動、(5) テストベッドの構築を行う。

特 徴

新世代モバイル研究開発プロジェクトの企画、管理、運営を通してプロジェクトの効率よい推進を支援する室で、統括リーダーと三つの研究グループの間の調整、国内外の外部研究機関との調整、標準化活動の促進、テストベッドの構築等を行う。

今年度の計画及び報告

今年度の計画

- (1) 重点研究課題の調整、予算配分・予算管理、プロジェクトの進捗管理、人材資源の発掘等
- (2) プロジェクト会議の開催、サポートメンバー会議及びコンソーシアム会議の開催、WEB 等による情報流通及び発信の促進
- (3) 新世代テストベッドの構築、YRP TestNet との連携、海外テストベッドとの連携
- (4) アジア地域との研究連携 (中国、韓国、シンガポール、インド等)、欧米との研究連携の強化
- (5) TAO 第 4 世代プロジェクト (第 4 世代移動通信システム研究開発連絡会) との研究連携強化
- (6) 標準化活動の促進、国際会議の開催、成果発表会の開催

今年度の成果

- (1) 定例でグループリーダー会議及び全体会議 (プロジェクト員全員の参加) を開催し、プロジェクトの進捗管理を行った。専攻研究員、交流制度による研究者の招へい、研究委託により人材資源の確保に努めた。年度当初に重点課題の調整及び予算配分調整を実施した。理事長指示事項への対処を実施した。
- (2) 11/1 サポートメンバー会議及び 10/8 コンソーシアム会議開催。WEB 等による情報流通を図った。
- (3) 新世代テストベッドの構築に向けた検討を行った。YRP TestNet との連携を図った (デモ実施及び分科会主査)。地上デジタル放送実験施設の整備を実施した。中国北京郵電大学とテストベッド (日中高速回線整備) による共同実験を検討中である。
- (4) 中国、韓国とはワークショップの開催、人材交流を進めている。英国 VCE と人材交流 (招へい) を、デンマークオールボー大学とは共同研究のため人材派遣を実施。ワークショップも開催し、情報交換に努めている。
- (5) 第 4 世代移動通信システム研究開発連絡会を定例化し、旧 TAO プロジェクト (公募により民間企業が参加) との連携を進めている。ユニット制が導入され、より密接な連携を図った。
- (6) ITU-R WP8F 及び IEEE802.20/21 等の標準化活動を実施した。ICB3G をはじめとして国際会議及び国内での会議を主催した。サポートメンバー会議や共同研究機関とのワークショップを開催し、成果の積極的な公開に努めた。ワイヤレスジャパン等の展示会にも積極的に出展し、広報活動も実施した。